

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	幼児の育成指導事業	所管	保健福祉部 母子保健課
			TEL 2991-1811

事業の目的 (何の為に 行うか)	集団遊びを通して、保健師・家庭児童相談員・保育士がより多面的に児を観察し、健全な発達を促す。また、保護者の不安を受け止め、安心を与えることで、育児支援を行っていくものとする。
------------------------	---

対象 (誰を、何を 対象として いるか)	1歳6か月児健康診査等(未受診者把握を含む)にて、言語・運動発達面で経過観察が必要と思われる1歳6か月から2歳7か月の児とその保護者。	対象とした数	71	人
		実際に 利用した数	61	人

活動の内容	(何を したか)	自由遊び、家庭児童相談員と保育士による設定遊び、2歳児の発達についての話の中で、保護者が日常を振り返り、気づきの場としている。身体測定、集団遊びの様子と保護者の主訴を考慮し、個別相談を行う。カンファレンスを行い、今後の方針を検討する。												
		活動実績	項目名	開催回数	10	項目名	対象人数	71	項目名	参加者	61			
				-----	単位	回		-----	単位	人		-----	単位	人

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	120	120	4,723	13.9

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	参加率	参加者÷対象人数×100	100	85.9	85.9
			-----	-----	-----
			単位	単位	単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 []				
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止				
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了				

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了						
	総合 評価	拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他 []					終了
		予算	現状どおり 増額 減額 終了				

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当部課	部課コード	040800	画	2991-1811
事業コード	040816	児童の育成指導事業		保健福祉部 母子保健課		
開始年度	平成 9 年度	→	終了年度	平成 年度		
グループ		母子保健グループ				

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託+附加			根拠法令			
	分野別計画・指針	所沢市次世代育成支援行動計画			母子保健法			
	関連・類似事業	乳幼児健康診査事業						
	総合計画の体系	政策	第3章 豊かな心で健やかに暮らせる支え合いのまち	施策	6節 保健・医療	中柱	2 生涯を通じた健康づくりの推進	小柱
H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 11 位		実施計画における位置づけ… H19 ○ H20 ○						
行政改革大綱における行動計画への位置づけ								
コード	1111	市民の知りたい情報の提供		コード				
事業開始の背景 核家族化や都市化の進行等により、子育てを支援する身近な相談者がいない中、3歳児健康診査までの間、言語・運動発達面で経過観察が必要と思われる児に対して、集団遊びを通して発育発達の確認と保護者へ気づきの場を提供し、子育て支援を行うために実施された。								

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に) 集団遊びを通して、保健師・家庭児童相談員・保育士がより多面的に児を観察し、健全な発達を促す。また、保護者の不安を受け止め、安心を与えることで、育児支援を行っていくものとする。									
	対象(誰を、何を対象としているのか) 1歳6か月児健康診査等(未受診者把握を含む)にて、言語・運動発達面で経過観察が必要と思われる1歳6か月から2歳7か月の児とその保護者。			利用数の考え方 幼児相談に予約し、参加した人数。						
	対象数	単位	平成 18 年度	84	人	利用数	単位	平成 18 年度	51	人
			平成 19 年度	71	人			平成 19 年度	61	人
事業の具体的な内容及び実施方法 自由遊び、家庭児童相談員と保育士による設定遊び、2歳児の発達についての話の中で、保護者が日常を振り返り、気づきの場としている。身体測定、集団遊びの様子と保護者の主訴を考慮し、個別相談を行う。カンファレンスを行い、今後の方針を検討する。										

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性) << 最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input checked="" type="checkbox"/> 二次評価 >>					
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])				
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
	平成19年度中に改善した点 予約者が少ない場合は、翌月に振替えることで人件費削減を図った。 児の発育発達や保護者の相談内容が変化しているため、育児不安や虐待予防を踏まえた個別相談の対応について、スタッフ間で意識を高めた。					

⑤経費	《会計種別》		一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算			120	120	120
	決算(見込み含む)			120	120	
	(嘱託職員) (臨時職員)		(人) (0.60) (人) (0.60 人)			
	正規職員人件費		0.49 人	4,508	0.49 人	4,603
	公債費					
	事業費合計			4,628	4,723	
	財源内訳		一般財源	4,628	4,723	120
			国・県支出金			
			受益者負担金			
		市債				
		その他				
市民一人当たり(単位:円)			13.7	13.9		
利用数一単位あたり(単位:円)			90,745.1	77,427.2		

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	活動実績	開催回数	1回/月×12	回	12	10	12
		対象人数		人	84	71	
		参加者		人	51	61	
成果分析	参加率	参加者÷対象人数×100	目標値	100	100		
			実績	60.7	85.9	実績値の拡大を図る1	
			達成率	60.7	85.9	実績値の縮小を図る2	

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直し必要性	実施主体	見直しの必要性
		<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	市	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などの整理・統合	受益と負担の関係	受益者負担の有無
<input type="checkbox"/> 統合する <input checked="" type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input type="checkbox"/> 統合等必要なし		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
明らかとなった課題	多様化する保護者の育児不安を軽減し、児童虐待を予防するため、更に事業を推進させていく。			
評価	今期目標項目(何を)		達成水準(どこまで)	時期(いつまで)
	平成20年度における目標設定 育児不安を抱えた保護者が軽減するように、子ども支援課と連携する。		子ども支援課との調整会議にて、本事業の現状と問題点を探る。	平成21年3月
	平成21年度における事業の方向性			
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])		
予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了			
評価理由 発達に遅れがある子供や育てにくい子供を育てる保護者が、保健師と家庭児童相談員の相談により育て方を学ぶことで不安が軽減され、ひいては児童虐待を予防できる。				
評価日		平成20年5月2日	記入者職氏名 母子保健課長 小林 昌治	

⑧二次評価	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了					
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了					
	評価理由	評価日					
年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
評価理由	市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
	評価日						C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画		本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	施策の体系					施策の方向
	◎次世代育成支援行動計画					
	基本目標	1子どもたちがたくましく生きていくための力を伸ばします				
主要課題	2ホームタウンとしての家庭・地域づくり					
施策の方向	2母子保健事業の推進					